

令和7年度 第1回 長門市環境審議会 会議録（要約版）

日時：令和7年11月14日（金） 10：00～11：45

場所：長門市役所4階 会議室1・2

出席者：副市長、委員14名（欠席3名）、委託事業者 3名
事務局6名

1 開 会

2 副市長あいさつ

3 自己紹介

委員・事務局紹介

4 会長・副会長の選任について

事務局案 上田 洋一 会長 小野 妙子 副会長 で可決

5 諮 問

長門市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

諮問書を長門副市長から上田会長に対して手交

6 審議事項

長門市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

計画（素案）の説明について

※委託事業者「エスプール（株）」から説明

質疑応答

※各委員から事業者に対して質疑

7 その他

※次回、12月中旬頃に開催予定（本日の審議会意見を取りまとめ、答申案検討）

8 閉 会

【主な質疑等】

長門市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

	発言内容
A 委員	<p>緑化を推進する際、商品価値の高いスギやヒノキだけでなく、クマの餌となるブナやドングリのなる木も植えるべき。餌不足でクマが人里に下りてくる現状を鑑み、食物連鎖への影響を考慮してほしい。</p> <p>仙崎漁港でマイワシが増えるなど魚種が変化している、また長門市の養殖業が衰退しているのも、海水温上昇が関係しているのではないか。</p>
B 委員	<p>水産研究センターの 61 年間のデータでは、表層水温が 1.46 度上昇しております。</p> <p>わずか 1.46 度と感じられるかもしれないが、魚の体感是人間の 10 倍との説があり、影響は大きい。</p> <p>実際に熱帯性の魚種も増えている。</p> <p>漁業関係者が進める藻場の保全・再生対策（ブルーカーボン）を、本計画の施策にも盛り込んで頂きたい。</p>
事務局	<p>主管課と連携し、緑化の推進およびブルーカーボン（藻場の再生）なども含め、担当課で検討し、今後の施策リストに反映させていきたい。</p>
A 委員	<p>コンポスト導入への費用補助を行えば、ごみ減量につながるのではないか。</p>
事務局	<p>コンポスト購入補助制度は既に導入しており、詳細は市ホームページで案内しています。</p>
C 委員	<p>再生可能エネルギー導入ありきで計画が進んでいる印象を受ける。具体的な導入手法は何か。</p> <p>この会議はどのくらいのスパンでやるのか。</p>
事務局 S	<p>主に住宅への太陽光パネル設置を想定している。新築・既存住宅への導入割合を定め、空き地への設置も検討していきたい。</p> <p>バイオマスや地中熱への取り組みも考えられるが、具体的には次期計画以降かと思います。</p>
事務局	<p>今後の日程ですが、来月予定している次回会議までに今回出た意見を反映した答申案を提示する予定です。</p> <p>次回で内容がまとまれば、次回で終わり。まとまらなければもう一回と考えています。</p>
D 委員	<p>資料の中に長門市民を対象としたアンケート調査があったようだが、内容と結果を知りたいので次回会議まで共有してほしい。</p>
事務局 S	<p>事務局と調整してアンケート結果を送付します。</p>

E 委員	スケジュールは資料記載のとおり進めていくのですか。
事務局	はい、その予定です。
S 委員	<p>今回の資料については、よくできているので直接の意見はない。</p> <p>この計画自体はベース（基礎）としてはかなりいい線をいっていると思う。</p> <p>国（46%削減）や県（35%削減）の目標に対し、長門市がどの程度の削減目標を担うべきか、市の産業構造などを踏まえた上で、市民が納得できる根拠のある説明が必要だ。</p>
事務局 S	<p>山口県は製造業が多い。国は 46%削減、山口県は 35%削減を目標値にしている。</p> <p>長門市は特別に製造業が多いというわけでもないが、無理のない範囲で進めることが重要。</p> <p>県の目標は 35%だが、長門市は国の目標である 46%を目指すことも選択肢として考えられる。目標設定の根拠については、今後さらに検討を重ねて説明していきたい。</p>
S 委員	<p>長門市の目標設定の根拠説明がやはり重要だと思う。</p> <p>太陽光パネルだけで目標達成できるなら、その旨を明確にすべき。風力発電は反対運動も多く難しいかもしれないが、施策における再エネの割合が少ない印象を受ける。</p>
事務局 S	今後事務局と連携して煮詰めていければと思います。
F 委員	国・県の削減目標の推計方法と、長門市の推計方法は同一ですか。
事務局 S	山口県をベースにしているが按分方法など一部異なる。基本は同じ。
F 委員	<p>長門市独自の推計ということですね。</p> <p>排出量の工場の利用量エネルギーという表現をされているのですが、消費したエネルギーのみを入れるのか、それ以外の部分も入れているのか。</p>
事務局 S	基本はエネルギー消費分のみを排出量に含み、メタン等は含まれていない。
F 委員	<p>長門市がどれだけの目標を設定するかが重要。</p> <p>山口県は瀬戸内海に工場が張り付いている。石炭火力もありセメント工場もあり、全国でも工場関係の排出量が多い。それでも 35%を目指す。</p> <p>山口県と同じ目標では少し甘いかもしれない。</p> <p>施策によって何を削減するのかを明確にすべき。</p> <p>4 章の 6 ページ 数値が入っているものと入っていないものがあるが、違いがあるのか。</p>
事務局 S	現状は仮入力状態です。ここには何らかの数字が入りますが、現状検討中です。

F 委員	<p>次回示されるかもしれないが、正確に推計するのは難しいのではないかと思う部分がある。</p> <p>施策を進めるにあたって、それを誘導していくのか、また啓発のみに留めるのか。誘導するとなると補助事業等を組んでいくことになるので、どういう風に進めていくのかが今後の課題となる。</p>
事務局 S	<p>誘導にしても、普及啓発にしてもいろんな手法を使って、市民・業者の方々にまずは知ってもらうように働きかけていきたい。</p>
S 委員	<p>再生可能エネルギーの建設については、何をするにもメリット、デメリット双方がある。それぞれの反対理由があって、行政が積極的に住民説明等に介入しないと実現が難しい。行政としてそういう決意の施策があってもいいのかと思う。</p>
事務局	<p>積極的な介入は難しいかもしれませんが、首長や関係部署と協議します。</p>
G 委員	<p>脱炭素を進めることで地域経済が縮小しては本末転倒。経済発展と両立する計画にしてほしい。</p>
事務局 S	<p>本計画は「脱炭素と地域課題の同時解決」を目指すもの。</p> <p>地域経済との両立は基本スタンスであり、計画策定を通じて国の補助事業などを広く市民・事業者にも周知していきたい。</p>
A 委員	<p>原子力問題などが未解決な中、計画が絵に描いた餅にならないよう、市民一人ひとりが実践できる 3R（リデュース・リユース・リサイクル）などを中心に据えるべき。</p>
H 委員	<p>市民が「自分たちに何ができるか」を具体的に理解できるよう、「生ごみの水分を減らす」「車に乗る頻度を減らす」といった分かりやすい行動目標を示すべき。</p> <p>また再生可能エネルギーとは耳障りがいい言葉ですが、メリットだけでなく、風力発電のための森林伐採や、太陽光パネルの維持費・処分問題といったデメリットも分かりやすく市民に示して欲しい。</p> <p>農業水路での水力発電は、長門市では全く普及していない理由はなぜか。</p>
F 委員	<p>本計画の目的は、大きなフレームを作って、施策の中で、普及啓発というか市民の方々にわかりやすく伝えるという流れになると思います。</p> <p>今回の審議については、その前の大枠の話をしているところなので、具体的なことを議論するというよりは、具体的な施策を進めるための計画を策定することになると思います。</p>
G 委員	<p>自身も製造業で重油を使い CO2 を排出している。こうした事業者に対し、後ろめたさを感じずに事業を継続できるよう、具体的なアプローチ方法を計画に盛り込んでほしい。</p>
F 委員	<p>資料中 4 章 6 ページにもあるのですが、将来推計の産業部門ではそんなに大幅には削減する計画とはなっていない。</p> <p>森林吸収および施策で減らすという方向性になるのではないかと思います。</p> <p>詳細は次回示されると思う。</p>

B 委員	計画の記載項目や構成の根拠は何ですか。
事務局 S	計画は国のマニュアルに基づいている。長門市独自の部分もあるが、大枠は国基準。
I 委員	休耕地などに設置した太陽光パネルが、将来的に産業廃棄物の捨て場にならないための担保はあるのか。
事務局	不法投棄は廃棄物対策として対応する。近年のパネルは分別しやすくなるなど技術が進んでおり、専門の処理業者もいるため、処理問題は以前より改善されていく見込み。